
ワークショップ 1

日本の常識 海外の非常識

座 長 寺 田 直 樹 (福井大学医学部泌尿器科学講座)

賀 本 敏 行 (宮崎大学医学部発達泌尿生殖医学講座泌尿器科学分野)

司会のことば

日本は他のどの国とも陸続きで接しておらず、諸外国からの移住者が極めて少ない国でした。そのことにより、様々な独自の文化が生み出されてきましたが、半面、閉鎖的な国民性が育まれてきたことは否めません。医学の分野においても、学生の授業や試験のほとんどが日本語で行われ、各疾患に対する診療に関して、日本語の教科書やガイドラインがあります。それらに従い、保険制度で決められた診療を行っている、我々が常識だと思っていることが、海外では非常識である場合も少なくないと考えます。

近年、インターネットやSNSを用いることで、世界中の最新の情報を手に入れることが出来るようになりました。論文やガイドラインだけでなく、学会で発表された最新の情報について検索すれば、様々な疾患に対する世界の標準治療について知ることが出来ます。一方、実際の医療現場でどのような診療が行われているのかについては、やはり現地に行かないと分からない部分が多くあります。実際に海外に滞在し、その国の医師や研究者と交流することが、診療の現状を知る最も良い方法です。

本ワークショップでは、海外での留学経験のある演者として、アメリカに留学されていた鳥取大学の本田正史

先生と、同じくアメリカに留学されていた鹿児島大学の吉野裕史先生と、カナダに留学されていた広島大学の郷力昭宏先生に、それぞれ留学先での研究および様々な経験についてご発表いただきました。文化や価値観の違いに面食らうこともありながら、研究だけでなく、日常生活における刺激的な経験の数々を紹介して頂きました。また、タイの Mahidol 大学から日本に留学されていた Varat Woranisarakul 先生からは、いろいろな日本の文化に触れた経験だけではなく、日本人特有の人間性について感じた印象などを発表して頂きました。

近年、海外留学をする泌尿器科医が減りつつあると言われています。本ワークショップにより、皆様に海外留学の素晴らしさが伝わったのではないかと思います。本ワークショップを聴講した若手の泌尿器科医のうち、1人でも多くの方にとって、海外留学を目指すきっかけになったのであれば幸いです。また、今後もアジアを中心とした各国から多くの留学生が日本に来られると思います。そのような方々と積極的に交流することで、診療や研究だけでなく、人間力の向上にもつながる可能性があることが分かりました。このような素晴らしい企画の司会を担当させて頂きましたこと、心より感謝申し上げます。